CLAUDE COMMUNITY TOKYO

ハッカソンの案を 1 枚で伝える（見本）

〔例〕発表の前に、審査員へ渡す要約

2026 年 11 月 20 日　岡本 賢

〔例〕この 1 枚は、作った案を審査員に先に渡すための要約です。**読む時間は 2 分**を想定しています[1]。

要点

- 〔例〕困っている人は、毎週同じ確認をしている事務の担当者です。
- 〔例〕変わるのは、確認にかかる時間が 30 分から 5 分になる場面です。

> **ポイント：**〔例〕審査員が最初に見るのは、変わる場面の一文です。

〔例〕結果

何が変わるか

〔例〕変わったのは、確認の時間だけではない。

〔例〕使った人の声

> 〔例〕The original English sentence goes here.
>
> 訳：〔例〕ここに日本語訳が入ります。
>
> 〔例〕参加者インタビュー（2026 年）

〔例〕詳しい手順は説明のページにあります。設定は `config.toml` の 1 行だけです。質問は当日の会場で受けます。

曜日	前	後
月曜	30 分	5 分

表 1：〔例〕確認にかかる時間

```
diff_only = true  # 〔例〕違いだけを出す
```

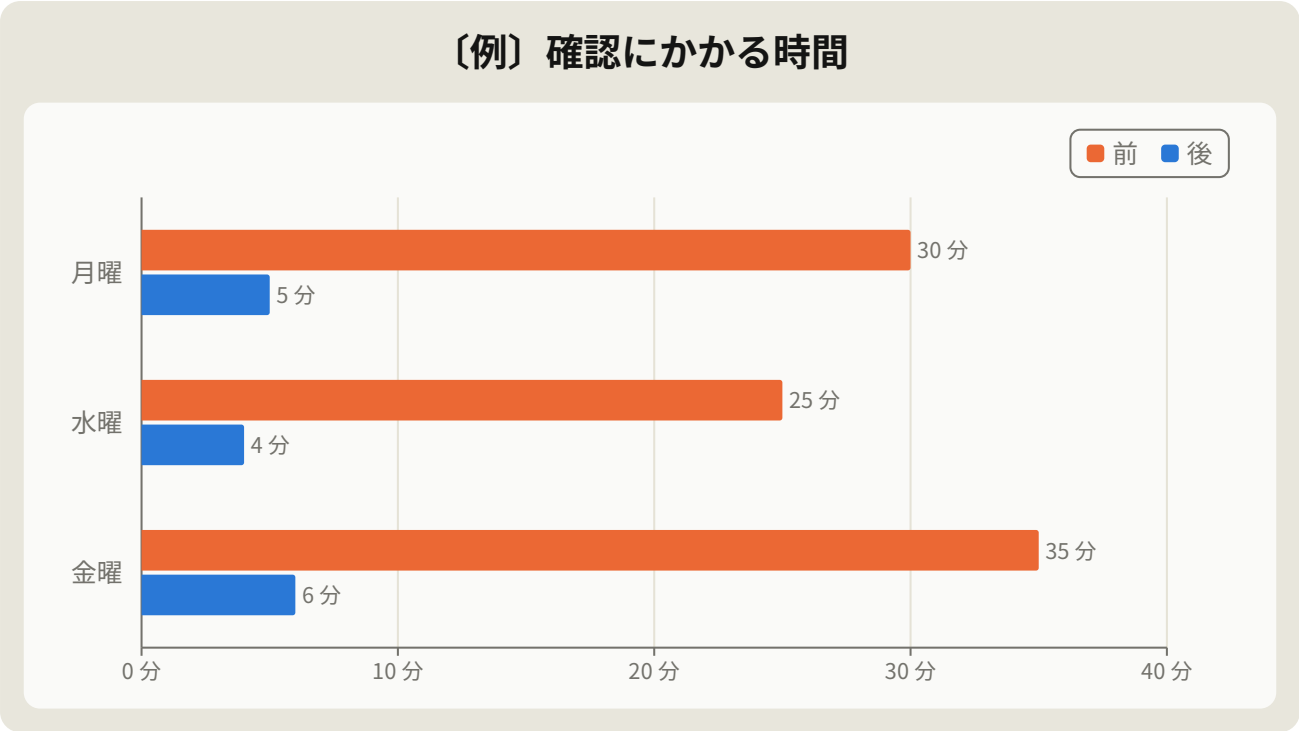


図 1：〔例〕確認にかかる時間
注：〔例〕架空の数字。見本のための値。

1. 〔例〕確認する表を選ぶ。
2. 〔例〕違いだけを受け取る。

〔例〕Claude に送る依頼

> 〔例〕先週の表と今週の表の違いだけを、3 行で教えてください。

その場で書く一行

この案は ＿＿＿＿＿＿ の時間を ＿＿＿＿＿＿ に変える。

---

[1] 〔例〕審査の前に配る場合を想定した目安。

〔例〕著者名. 2026. 「題名」. 媒体名. https://example.com/a

この資料について
〔例〕この見本は report-kit の要約型が使える書き方を一度ずつ使っています。数字と引用は形を示すための仮のもので、実在の調査や文献ではありません。